9:05～10:05『全学技術センター これまでの発展と今後への期待』

全学技術センター長・理事・副総長　藤井 良一 氏

日本を代表する総合研究重点大学である名古屋大学は、創造的な研究活動によって真理を探究し世界屈指の知的成果を産み出すことを目指しています。高度な研究とそれを担う人材の育成や学生の教育には、色々な分野の技術支援が必須です。また、大学は安全で適切な研究教育環境の構築・維持は勿論のこと、より広く環境保全などサステイナブルな世界を作ることにおいても社会の範となる指導的な役割が期待されています。これらを進めるに当たり全学技術センターは中心的な役割を果たすことが求められています。本学は平成 16 年 4 月に全学技術センターを設置し、平成 21 年 4 月には、本センターは「教育および研究に対する技術的な支援を行うため、本学の部局からの要請に基づき技術職員を派遣または配置するとともに、本学構成員の依頼に応じて支援業務を行う」組織であることを明確化して、新しい運営の体制と組織になりました。センターの所掌する仕事の範囲も、近年は NCC や知の拠点あいちのシンクロトロン光センターなどの大型機器の運用や環境安全等広がりをみせています。更に、昨年２月に全学技術センターの中に設備機器共用推進室が立ち上げられ、本年４月から全学としての組織的な設備機器共用の本格運用を始めます。本センターを拠点として、名古屋大学の教育研究支援技術がさらに高度化し発展することが期待されます。全学技術センターを今後更に発展させるためには、分野内、系内での連携協力や情報や技術の共有、系間での情報交換、部局を超えた人事交流が必要です。この共有や交換は全学技術センターになり以前より良くなりましたが、未だ十分ではないのが実情だと思います。各系の連絡会を実効有るものとすると同時に、技術職員が自立的にセンターの将来計画や人事等について技議論し決めていくことがセンターの持続的発展に、ひいては大学全体の発展にとり大変重要だと考えます。その意味で、現在検討が始められたセンターのあり方や将来構想の議論は第一歩となるもので、今後更に積極的に取り組まれることが期待されます。